

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475301071	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地		
所在地	(〒213 -0032) 神奈川県川崎市高津区久地2-12-22		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2ユニット
自己評価作成日	令和3年11月20日	評価結果 市町村受理日	令和4年1月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・コロナ対策として面会一時停止中であった。(2021年11月より段階的に緩和を進めているが、いまだ以前のような状態ではない。)
- ・情報発信に力を入れている。
日々の様子や行事での出来事、事業所の運営情報、利用者様の笑顔等を写真を交えて出来る限りわかりやすくスタッフブログにて積極的に更新をしている。
これにより多数のご家族様から「嬉しいです」「安心します」「ありがとうございます」等のお声をいただいている。
- ・室内レクリエーションに力を入れている。
コロナ対策中のストレスや機能低下を防ぐため、多数の室内レクリエーションを実施し、運動不足や気分転換や笑顔に繋がる様努めている。(季節のおやつ作り、出前昼食、運動会(久地リンピック)、リモート体操(リモート盆踊り)ヨガ、リズムダンス体操、歌、季節のちぎり絵等)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年12月17日	評価機関 評価決定日	令和4年1月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

- ◇身体拘束をしないケアと虐待防止への取り組み
事業所では「身体拘束廃止委員会」と「虐待防止委員会」を開催して、職員研修を実施している。職員は、ロールプレイや事例検討を行うことで、身体拘束と虐待防止への意識を高め、また、勤務に入る前に全員で「虐待ゼロへの行動指針」を唱和し、利用者を尊重するケアを実践している。
- ◇事業所の理念「笑顔でより楽しい毎日」の実践
利用者が、笑顔で暮らせるような日々を目指し、職員は笑顔で利用者に接し、レクリエーションを充実するなど、楽しい雰囲気作りに努めている。

【事業所が工夫している点】

- ◇家族への情報発信
家族には、毎月の便り「一言通信」と、月に数回の職員によるブログ配信で、利用者の様子を報告している。コロナ禍にて面会に制限がある中で、家族の安心に繋がり、多数の感謝の声が届いている。
- ◇室内レクリエーションの充実
利用者の運動不足とストレス対策として、体操、運動会、リズムダンス、貼り絵、出前昼食、おやつ作りなど、多様なレクリエーションを実施して、利用者が日々楽しめるように工夫している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念・会社理念を玄関・スタッフルーム内に掲示し、申し送り時に唱和し、意識付けを行うことにより共有、実践へと繋げている。	・職員は、毎日スタッフルームで事業所と法人の理念を唱和して、意識の高揚に努めている。 ・理念の「笑顔でより楽しい毎日」を実践するため、職員がまず笑顔で利用者に接し、利用者が楽しい気持ちになるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策で、施設への入館、および面会も一時停止中である。それに伴い、地域の方のボランティアの方の来訪も休止中、地域の行事も中止が多く、事業所自体が地域の一員として、日常的な交流が難しい現状であった。	・町内会に加入し、会長とは運営推進会議で意見交換している。 ・コロナ禍前は、地域住民によるボランティア、近隣の桜祭りや子供神輿、外食や買い物など、地域とは日常的に交流していた。なお、現状は近隣から庭の柚子を貰うなどの交流は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症対策のため、実際には難しい部分があった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染症対策のため、事業所内に地域の方々をお呼びしての取組み状況の報告は難しかったが書面で報告を行った。又、質問等には“返信下さい”と記した用紙を同封した。（ご家族様、町内会長、老人会会長、民生委員、地域包括職員）	・コロナ禍前は、運営推進会議を2か月ごとに1回開催し、町内会長や地域包括支援センターから地域の情報や家族からの感想を得ていた。 ・現在は活動状況報告書をメンバーに送付し、事業所の現状の理解を得られるようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所職員や地域包括支援センター職員とは、介護保険や生活保護等に関する事案で連絡を取り合っている。今年は、電話で連絡を取り合う事が多かった。（コロナ対策）	・区役所とは、介護保険や生活保護の件で、電話で連絡をしている。コロナ対策のため、生活保護者と区相談員との面談に代え、事業所から状況を伝えている。 ・地域包括支援センターとは、高齢者見守り会などで話す機会が多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない事を前提としている。身体拘束廃止委員会を設置し、話し合いや事例検討、ロールプレイ等の中で理解を深めている。委員会は、年6回開催しそのうちの2回は身体拘束適正化のための研修を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「身体拘束廃止委員会」で、利用者の状況に応じた拘束にならないケア方法を話し合っている。 ・事例検討、ロールプレイを取り入れた研修で理解を深めている。 ・日常のケアでスピーチロック等の可能性がある場合は、管理者がその都度指導している。 	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、チェックシートを用いてセルフチェックを行う他、事例検討等を実施している。又、勤務に入る前に「虐待ゼロへの行動指針」を唱和して意識付けを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回「虐待防止委員会」を開催している。 ・事例検討、利用者の状況報告を基に検討し、チェックシートにてセルフチェックを行っている。 ・職員は自分の身になって虐待を理解し、虐待防止に努めている。 	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で開催されるセミナーの掲示、研修会等学べる場、参加できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得していただいた上で、契約をしている。又、契約時以外でも随時質問を受け付け、安心して理解していただける様に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議は、コロナ対策の為、現在実施していないが、その旨通知する案内用紙には、ご意見を記入する枠を設けている。その他日常での電話連絡時にご希望やご意見があれば随時お伺いし、運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会、運営推進会議、面会が休止中のため、電話や書面連絡にて意見等を求めている。 ・毎月の便り「一言通信」の他、月数回ブログを発信しており、家族から感謝され、職員はその声を励みに利用者へ接している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や、個別に面談する機会を設けている。その他にも連絡帳を通して常に意見が可能な環境を作り、反映させている。	・フロア会議、個別面談で職員と話し合い、要望や意見の把握に努めている。 ・外出レクリエーション休止に代わり、職員からおやつ作りや貼り絵工作を拡充する提案があり、室内レクリエーションに取り入れている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課を実施している。個々の頑張りを平等に評価することで、それぞれがやる気や向上心を持って働くことができる環境整備に努めている。	・人事考課に資格給と役職給を設け、職員に年2回の人事考課を実施して、向上心の発揮に繋げている。 ・管理者は、年2回職員の個人面談を行い、状況に応じてシフトを作成する等、働きやすい環境作りに努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、フォローアップ研修等各自に合わせた研修機会を設けている。働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・外部研修には、補助金を出して受講を促し、職員に資格取得講座のファイルを開覧し、資格の取得を支援している ・内部研修には、ロールプレイを取り入れる等、職員を育てるトレーニング内容にしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ対策のため、同業者と直接交流の場を作るのは難しい現状であった。しかし、リモート交流で法人内他施設と交流する機会があり実施している。		
い					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前(入居前)の念入りな聞き取りを基本とし、入居時、入居後も傾聴を前提としたヒヤリングを随時行いご本人の安心、思いを尊重するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な時間を設けご家族のお話を伺っている。その他電話連絡時積極的にコミュニケーションをとる中で相談しやすい環境づくりを目指し、継続している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談を念入りに行うことを大前提とし、入居後も必要に応じて適宜カンファレンスを行うことで情報を共有して、「その時」必要としている支援へと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重し、できることは行っていたが、終了後は感謝の気持ちをお伝えすることにより、相互に支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発送している一言通信、その他電話連絡があったときに、報告・連絡・相談を行い、共にご本人様を支えていく関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の生活歴やご本人様との会話の中で出たワードを基に、話題提供を行っている。 コロナ禍前は昔からの趣味や馴染みの場所への外出を、定期的に行っていた。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍前は、職員の付き添いで競馬場に出掛けたり、家族と墓参に行く利用者もあった。 ・利用者との会話や家族からの情報を基に、趣味や歌の話題を提供して、利用者の思い出を大切にしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握した上で、職員が適宜介入して橋渡しをしている。その中で相互支え合うような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて適宜フォロー等、真摯な対応を続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の関わり、会話やコミュニケーションの中で、ご本人の思いを聞き取り、把握。都度にカンファレンスを実施。思いに添えるように努めている。	・日常の会話から、利用者の意向の把握に努め、申し送りや連絡帳で職員間で情報を共有している。 ・意思表示が困難な場合は、表情や仕草から読み取り、家族からの情報も得て、カンファレンスで検討し、思いに添えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前実態調査にて、出身地等過去の生活歴を把握している。また、日々の生活の中でも情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チェック表を用いて、バイタルや食事、水分量、排泄状況を把握している。又、利用者様個々の身体状態や行動、言動等を日々生活記録に記録し、連絡ノートや申し送りで共有することで把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、ご本人とご家族の意向や思いを反映した上で、必要に応じて関係者（主治医）等の意見も取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	・年2回、利用者の思いを反映し、家族と医師等の意見も取り入れて、介護計画を作成している。 ・3か月に1回、管理者と介護計画作成者、居室担当でモニタリングを実施し、計画の内容と実施状況を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録や申し送り、連絡ノート、医療ノート、健康管理表やバイタル表等を活用しながら情報を共有して、実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者がが必要とするサービスの提供をしている。 (訪問マッサージ・シニアセラピー・訪問理美容等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ対策にて、現在は自粛中であるが、それ以前は定期的な外食や外出（公園散歩、近隣飲食店等）を楽しんでいた。自粛中の中でも安全で豊かな暮らしを楽しむことができる様考えて支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期訪問診療では、主治医（かかりつけ医）とは顔馴染みの関係である。 かかりつけ医には、利用者様の夜間急変の際も救急ダイヤルにて、救急対応できる支援体制がある。	・全利用者の承諾を得て、協力医が月2回、歯科医が週1回訪問診療し、看護師が週1回訪問し健康管理に当たっている。専門医への通院には、家族が同行し、診療結果の報告を受けている。利用者はかかりつけ医と顔なじみで、気軽に健康相談をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「医療連携看護師連絡記録」が、介護職、看護職が相互に報告・連絡・相談しあうツールとなっている。また、看護師来訪時には、口頭でも詳細を伝え、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の基本は、早期退院を目標に、病院関係者と密に情報交換を行い、関係作りに努めている。また、退院前には必ず家族・主治医・事業所管理者とでムンテラの間を設けている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化や終末期の対応について説明を行っている。必要と考えられる段階で、関係機関の協力を得ながら、ご家族を含めた話し合いの場を持ち、チーム支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に重度化した場合の指針を説明し、必要な時期に家族や利用者の意思を再確認している。 ・看取りには、かかりつけ医、看護師、家族と連携して支援している。 ・全職員が対応できるように看取り介護の研修を実施している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、救急時の対応方法を設置している。職員が、迅速に対応できるように努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	さまざまな状況を想定した避難訓練や消防訓練を定期的に行い、実践訓練を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定を含め年2回、利用者も参加して災害訓練を実施している。うち1回は消防署の協力を得、水消火器訓練等を行っている。 ・3日分の食料を備蓄し、リスト化し、いつでも利用できるよう玄関の一角に保管している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍前は、訓練時に近隣住民に利用者の見守りを依頼する等、協力を得ていました。 ・コロナ終息後は、さらに、消火訓練に参加をお願いする等、一層の協力関係の構築が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合わせたお声掛け、対応を行っている。不定期にフロア会議内で、接遇や対応に関する話し合いを行っている。 個々の人格の尊重やプライバシーを大切にされた対応をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々にあった丁寧な声かけやトーンで話し、人格を尊重した接遇を行い、気になる対応については会議で意見交換している。 ・職員は、プライバシー保護マニュアルにて研修し、入浴介助や排泄等への配慮を学んでいる。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話やコミュニケーションの中から思いや意向を汲み取り自己決定がなされるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々変化する皆様の状況を把握しながら、臨機応変・柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪やヘアカラー、セラピー等、その人らしいおしゃれが出来る様支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様個々の能力や得意なことを把握し、食事の盛り付けや配膳、テーブル拭きや片付け等のお手伝いをしている。 又、毎月の出前昼食にて「食」を楽しむ機会も設けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳や食器拭き等、利用者のできる範囲で手伝ってもらっている。 ・利用者はおやつのおはぎやゼリーづくりを職員と一緒にしている。 ・月1回の出前昼食は、利用者がメニューから選んで注文し、好みのものを楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態（常食・一口大・刻み・ミキサー）にして対応している。それにより栄養状態の維持、改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促し、声掛け、介助を行っている。その他週に一度の訪問歯科診療（歯科医師・歯科衛生士来訪）による歯科支援を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を使用し、利用者様それぞれに合わせた、自尊心を傷つけないお声掛け、トイレ誘導等排泄支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表で排泄リズムを把握し、自尊心に配慮した声掛け・誘導をしている。 ・立位が保てる利用者はトイレに誘い、できるだけトイレで排泄できるよう介助し、紙おむつの利用につながらないよう支援している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分摂取の促し、水分量の確保。毎日の体操（運動）への参加。その他必要に応じて乳酸菌飲料での排便促進や内服薬（下剤）使用等、個々に合わせた予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意向や希望をお伺いし、希望を配慮した上で入浴支援を行っている。入浴日の固定、時間の固定、無理強いはいはしない。	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日や時間を固定せず利用者の希望を聞いて週2回以上入浴できるよう対応し、無理強いはいはしていない。 ・ヒートショック防止のため、脱衣所にエアコン、浴室上部にヒーターを設置している。 ・柚子湯や菖蒲湯を楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の皆様のその時の状況を把握した上で、時々にあった休息をとっていただいている。自室でくつろいでいただく時間を確保したり、除圧が必要な方には臥床し除圧をする時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬処方時に直接薬剤師より処方薬の説明を受け（月に2回）薬の理解を深めている。その他、必要に応じて随時薬剤説明書を確認。変更があれば医療ノートに記入をし、情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の皆様の好みや性格、得意なことに合わせて役割や楽しみごとと通院事を支援している。（おやつ作り、歌、ちぎり絵、読書、散歩等）		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス対策のため、現在は利用者様の「いきたい所」への外出（レストランや喫茶店等）は控えている。	・コロナ禍前は、近隣の花見やレストランでの食事など、利用者の要望に応じて外出していたが、現在は自粛している。 ・外食の代わりに昼食をベランダで食べたり、玄関前のベンチに座って花を見るなど外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として利用者様の金銭管理は「立替金」として事業所管理で行っているが、ご家族了承の下、安心のため少額を持たれている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙の投函支援を行っている。また、個人の携帯電話を使用されている方もいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内に行事時や日常に撮影した写真を掲示する事により、いつでも思い出を振り返られるようにしている。その他季節に合わせたちぎり絵制作。装飾。又、照明の調整、温度、湿度管理。清掃、換気を適宜実施している。	・エアコンや加湿清浄機で快適な温・湿度の保持に努め、感染症対策でこまめに換気を行っている。 ・季節感ある装飾や利用者制作のちぎり絵を飾り、ソファやテーブル、本棚、テレビを設置して、居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットにはソファや大型テレビ、マガジンラック等を設置している。個人でくつろがれたり、数人で談笑されたりと、皆様おのおのの時間を楽しんでいる。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔からの馴染みの家具や仏壇等、思い入れのある家具等をご家族と相談しながらお持ちいただいている。その他お気に入りのぬいぐるみやご家族との写真を置いている方もいる。ご本人が居心地の良い空間となるように工夫をしている。	・エアコン、ベッド、タンス、椅子、温度計を常備している。 ・利用者は馴染みの箆笥、仏壇、写真などを持ち込み、居心地よく過ごせるよう家族と相談し配置している。 ・掃除は利用者の状況に応じて居室担当が行い、清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室を皆様がしっかりと把握できるよう入り口に分かり易く（顔写真や文字拡大）掲示している。又、バリアフリー、動線の確保により安全な生活環境を整えている。		

事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地
ユニット名	2ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念・会社理念を玄関・スタッフルーム内に掲示し、申し送り時に唱和し、意識付けを行う事により共有、実践へと繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策で施設への入館、および面会の一時停止中である。それに伴い地域の方のボランティア来訪も休止中、地域の行事も中止が多く、事業所自体が地域の一員として日常的に交流は難しい現状であった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症対策のため、実際には難しい部分があった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染症対策のため、事業所内に地域の方々をお呼びしての取り組み状況の報告は難しかったが書面で報告を行った。又、質問等があれば返信下さいと記した用紙を都度お送りさせていただいた。（ご家族様、町内会長、老人会会長、民生委員、地域包括職員）		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所職員や地域包括支援センター職員とは介護保険や生活保護等に関する事で連絡を取り合っている。今年に関しては電話で連絡を取り合う事が多かった。（コロナ対策）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない事を前提としている。身体拘束廃止委員会を設置し、話し合いや事例検討、ロールプレイ等の中で理解を深めている。(年6回開催、そのうちの2回は身体拘束適正化のための研修を実施している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、チェックシートを用いてセルフチェックを行う他、事例検討等を行っている。又、勤務に入る前に「虐待ゼロへの行動指針」を唱和して意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で開催されるセミナーの掲示、研修会等学べる場、参加できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得していただいた上で契約をしている。又、契約時以外でも随時質問を受け付け、安心して理解していただける様に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議はコロナ対策の為事業所内で実施していない状況であるが、その旨を知らせる案内用紙に意見を書き添えていただける枠を設けている。その他日常での電話連絡時にご希望やご意見があれば随時お伺いし、反映させ続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や、個別に面談する機会を設けている。その他にも連絡帳を通して常に意見ができる環境を作り、反映させている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課を実施している。個々の頑張りを平等に評価する事でそれぞれがやる気や向上心を持って働く事ができる環境整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フォローアップ研修等各自に合わせた研修機会を有している。働きながらトレーニングしていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ対策の為、同業者と直接交流の場を作るのは難しい現状であった。しかし、リモート交流で法人内他施設と交流する機会があった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前(入居前)の念入りな聞き取りを基本とし、入居時、入居後も傾聴を前提としたヒヤリングを随時行いご本人の安心、思いを尊重するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な時間を設けご家族のお話を伺っている。その他電話連絡時積極的にコミュニケーションをとる中で相談しやすい環境づくりを目指し、継続している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談を念入りに行う事を大前提とし、入居後も必要に応じて適宜カンファレンスを行う事で情報共有し、「その時」必要としている支援へと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重した上で、出来る事は行っていただき、終了後は感謝の気持ちをお伝えする事により相互に支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発送している一言通信、その他電話連絡があった時に報告・連絡・相談を行い、共にご本人様を支えていく関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の生活歴やご本人様との会話の中で出たワードを基に、話題提供を行っている。 コロナ禍前は昔からの趣味や馴染みの場所への外出を定期的に行っていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握した上で、職員が適宜介入、橋渡しを行っている。その中で相互支え合うような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて適宜フォロー等、真摯な対応を続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の関わり、会話やコミュニケーションの中で、ご本人の思いを聞き取り、把握。都度にカンファレンスを実施。思いに添えるよう、努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前実態調査にて出身地等過去の生活歴を把握している。又、日々の生活の中でも情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チェック表を用いてバイタル、食事、水分量、排泄状況の把握をしている。又、利用者様個々の身体状態や行動、言動等を日々生活記録に記録し、連絡ノートや申し送りで共有する事で把握をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたってはご本人、ご家族の意向、思いを反映させた上で必要に応じて関係者（主治医）等の意見も取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録や申し送り、連絡ノート、医療ノート、健康管理表やバイタル表等を活用しながら情報共有。実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々が必要とするサービスの提供をしている。 (訪問マッサージ・シニアセラピー・訪問理美容等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ対策にて現在は自粛中であるが、それ以前は定期的な外出（公園散歩、近隣飲食店等）を楽しんでいた。自粛中の中でも安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができる様考え支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期訪問診療において、主治医（かかりつけ医）とは顔馴染みの関係である。 かかりつけ医においては夜間救急ダイヤルにて急変の際も救急対応できる支援体制がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師連絡記録が、介護職、看護職が相互に報告・連絡・相談しあうツールとなっている。 又、看護師が来訪時には口頭でも詳細を伝え、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は基本、早期退院を目標とし、病院関係者と密に情報交換を行い関係作りに努めている。 又、退院前には必ず家族・主治医・事業所管理者とでメンテラの場を設けている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期についての対応の説明を行っている。 必要と考えられる段階で関係機関の協力を得ながら、ご家族を含めた話し合いの場を持ち、チーム支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、救急時の対応方法を設置している。 職員が迅速に対応できるように努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	さまざまな状況を想定した避難訓練や消防訓練を定期的に設け、実践訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合わせたお声掛け、対応を行っている。不定期にフロア会議内で接遇や対応に関する話し合いを行っている。 個々の人格の尊重やプライバシーを大切にされた対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話やコミュニケーションの中から思いや意向を汲み取り自己決定がなされるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々変化する皆様の状況を把握しながら、臨機応変・柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪やヘアカラー、セラピー等、その人らしいおしゃれが出来る様支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様個々の能力や得意な事を把握した上で食事の盛り付けや配膳・テーブル拭きや片付け等のお手伝いをしている。 又、毎月の出前昼食にて「食」を楽しむ機会も設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態（常食・一口大・刻み・ミキサー）にして対応している。それにより栄養状態の維持、改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促し、声掛け、介助を行っている。その他週に一度の訪問歯科診療（歯科医師・歯科衛生士来訪）による歯科支援を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を使用し、利用者様それぞれに合わせた、自尊心を傷付けないお声掛け、トイレ誘導等排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分摂取の促し、水分量の確保。毎日の体操（運動）への参加。その他必要に応じて乳酸菌飲料での排便促進や内服薬（下剤）使用等、個々に合わせた予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意向や希望をお伺いし、希望を配慮した上で入浴支援を行っている。 入浴日の固定、時間の固定、無理強いはいはしない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の皆様のその時の状況を把握した上で時々にあった休息をとっていただいている。自室でくつろいでいただく時間を確保したり、除圧が必要な方には臥床し除圧をする時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬処方時に直接薬剤師より処方薬の説明を受け（月に2回）薬の理解を深めている。その他必要に応じて随時薬剤説明書を確認。変更があれば医療ノートに記入をし、情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の皆様の好みや性格、得意な事に合わせて役割や楽しみ事を支援している。（おやつ作り、歌、ちぎり絵、読書、散歩等）		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策のため、現在は利用者様の「いきたい所」への外出（レストランや喫茶店等）は控えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として利用者様の金銭管理は「立替金」として事業所管理で行っているが、ご家族了承の下、安心のため少額を持たれている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙の投函支援を行っている。又、個人の携帯電話を使用されている方もいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内に行事時や日常に撮影した写真を掲示する事により、いつでも思い出を振り返られるようにしている。その他季節に合わせたちぎり絵制作。装飾。又、照明の調整、温度、湿度管理。清掃、換気を適宜実施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットにはソファや大型テレビ、マガジンラック等を設置している。個人でくつろがれたり、数人で談笑されたりと皆様おのこの時間を楽しまれている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔からの馴染みの家具や仏壇等、思い出のある家具等をご家族と相談しながらお持ちいただいている。その他お気に入りのぬいぐるみやご家族との写真を置いている方もいる。ご本人が居心地の良い空間となるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室を皆様がしっかりと把握できるように入り口に分かりやすく（顔写真や文字拡大）掲示している。又、バリアフリー、動線の確保により安全な生活環境を整えている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム
みんなの家.川崎久地

作成日 令和 4年 1月 2日

【目標達成計画】

優先 順位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	コロナ対策中、避難訓練や消防訓練に近隣住民の方々に参加していただけていない。	コロナ終息後は以前のように地域住民の方々に避難訓練や消防訓練に参加していただく。	<ul style="list-style-type: none"> ・道ですれ違ったら必ず挨拶をする事を続ける。 ・地域の行事において、感染対策の徹底の上、参加できそうな行事はまずは職員から参加をする。 	6か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。